

短期的な労働力不足の解消と関係人口創出を目的とした
都市部の若者と群馬をつなぐ農業ワーケーション

令和7年度「ぐんま Agri×NETSUGEN 共創」実証事業

の め の

-No農NoLife-

半農半X型農業ワーケーション



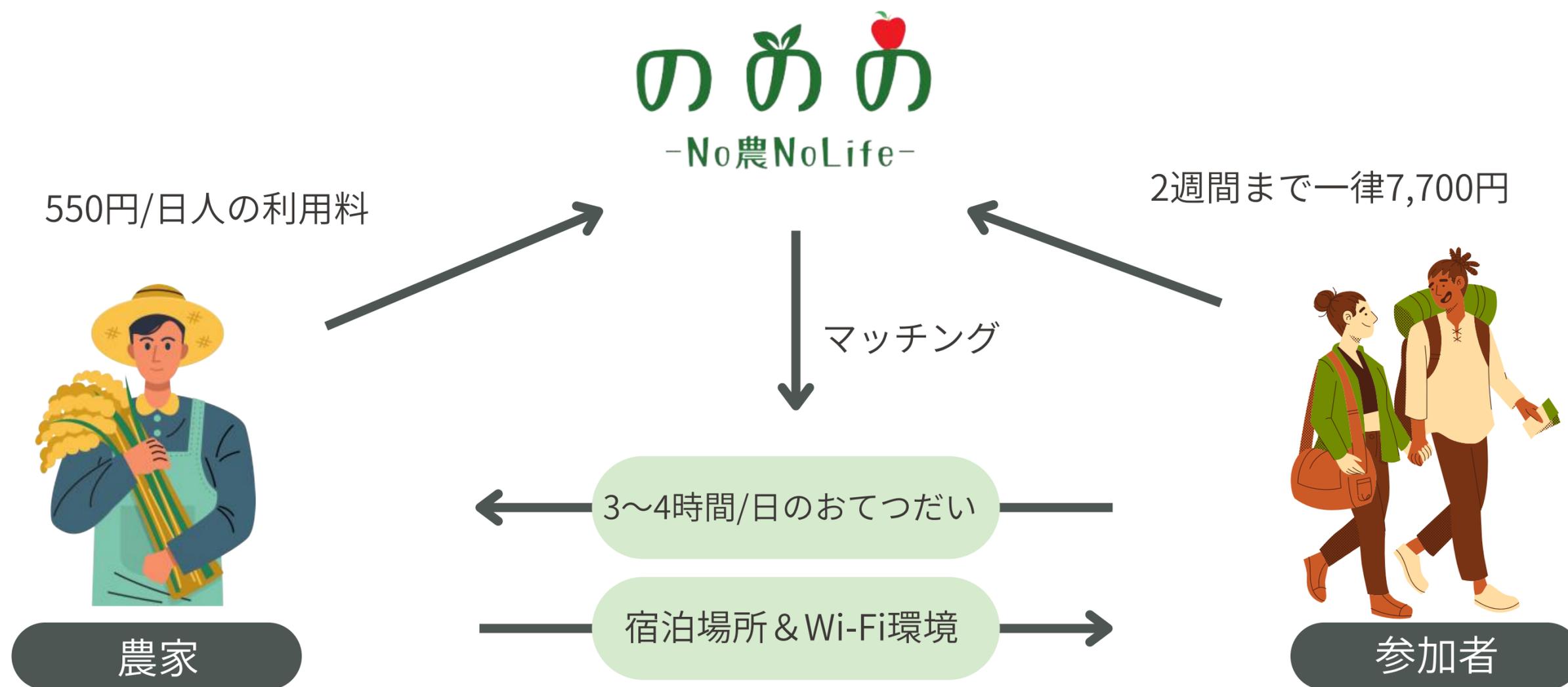
午前は農業

午後は自由

ののの (No 農 No Life) の魅力

一律7,700円で
2週間まで何泊でも！

参加者はお手伝いとして4時間農作業をし、農家さんはそれに対する報酬は一切発生しない代わりに宿泊場所とテレワークできる環境を用意します。



ターゲットの課題

仕方がわからない

ガチでやるほどでもない

機会がない

農業

×

X

No農NoLifeの理念

「農」への敷居を
限りなく低くする

都市から農村へ
新たな人の流れを創造

実績



提携農家 150 件



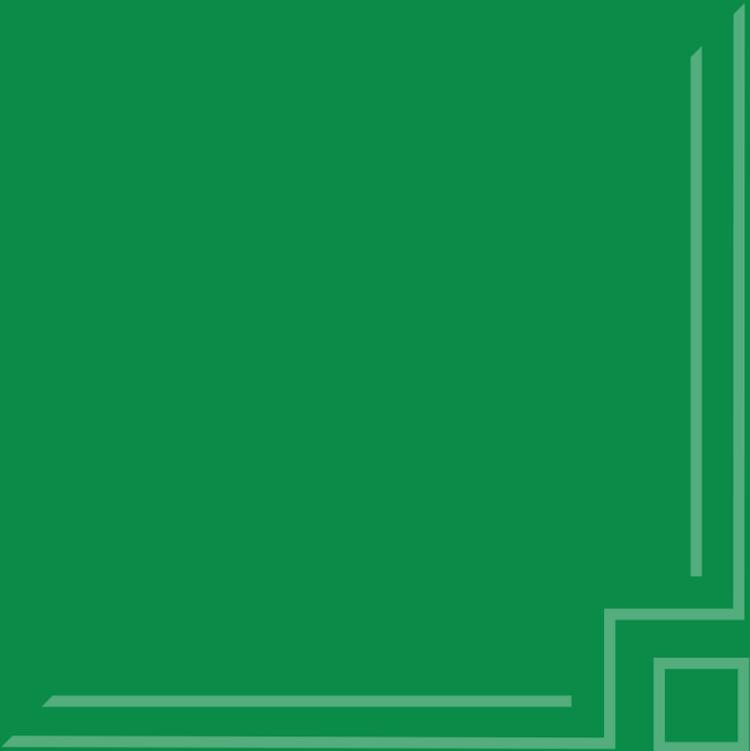


01 成果/進捗報告

02 その他の成果

03 全体の振り返り（課題・改善点）

04 今後の課題



協力農家さん

こまち園

田村公一さん



受け入れ期間
2025年11月～中旬

りんご女学校

寺崎弥生さん



受け入れ期間
2025年5月-2026年1月

石墨館

桜井勇一さん



受け入れ期間
2025年6月-2026年2月

















参加者の宿泊場所

石墨館



結果

マッチング人数

40名



ユーザー満足度

4.9/5



SNS総リーチ数

332,067



プロモーション動画

プロモーション活用を想定した横型動画クリエイティブを制作し、初期公開を実施
(SNS拡散、LINEのファーストメッセージに送付)



メディア

5月28日にPRタイムズにて
プレスリリースを拡散。
群馬ルールを広告で拡散



株式会社Perma Future、群馬県にて「農業ワーケーション」導入開始 ～「ののの」を活用し、都市部人材と農家のマッチングで関係人口を創出～

「令和7年度『ぐんまAgri×NETSUGEN共創』実証事業」を受託しました。2025年5月中旬より、都市部等の参加者が農業を手伝う「農業ワーケーション」を群馬県内で実施します。

株式会社Perma Future 2025年5月27日 15時40分



ののの
-No農NoLife-

ぐんまAgri×NETSUGEN共創事業

群馬県にて農業ワーケーションの実施へ

イベント成果報告

10月6日開催「週末限定からはじめる半農×半Xという新しい選択肢。」

イベントは20:00開始予定です。開始まで今しばらくお待ちください。

都市に暮らすわたしたちと“農”のやさしい関係

週末限定からはじめる
半農×半Xという、新しい選択肢。

10.6 MON 20:00 - 21:00

ZOOM(オンライン) 参加無料

コミュニティディレクター
長濱 裕作

りんご女学校
寺崎 弥生 さん

西島農園
西島 秀顕 さん

イベント内容

働き方LABとの共同企画。ゲストに働き方ラボの長濱さん、のののからりんご女学校寺崎さん、熱海の西島農園西島さんをゲストに呼びトークセッションを実施。実際にののので来る参加者がどのように過ごされているのかをイベント内で意見を交わした。

インスタ経由の申込獲得につながった

- 申し込み者人数：88名
- イベント参加者数：40名前後

そもそも半農半Xって何？

半農半Xに向いている人ってどんな人？

農体験ができる農家さんはどうやって探せばいい？

「農」を生活に取り入れるには何から始めればいい？

「農」ある暮らしで1番良かったことは何？

半農半Xの1日の過ごし方を教えて！



ソーシャルメディア運用

継続的な情報接触により、参加意欲の醸成を確認

- SNSフォロワー数：20,288名（+4067名）
- 投稿数：合計20投稿

①体験内容が具体的に想起できる写真・動画のトーンを統一したクリエイティブ設計

②LINEを活用した戦略的な情報配信を実施し、参加検討の後押し



noteの発信

よりリアルな体験を伝えることで「行きたいな」につなげる

目的

No農NoLife（ののの）の取り組みや想いを、
数値だけでは伝えきれない「現場の温度感・ストーリー」として可視化することを目的
に実施しました。

- 農家さん・参加者双方のリアルな体験を文章で残し、活動の社会的意義を伝える
- 事業の継続性・信頼性を、第三者が読んで理解できる形で示す
- 将来的な参加検討者・関係者（自治体・団体）への理解促進

投稿数

note投稿：4本

※農家さん・参加者の体験や想いをテーマに、継続的に発信



農から学ぶ“自分を大切にする感覚”

♡ 10

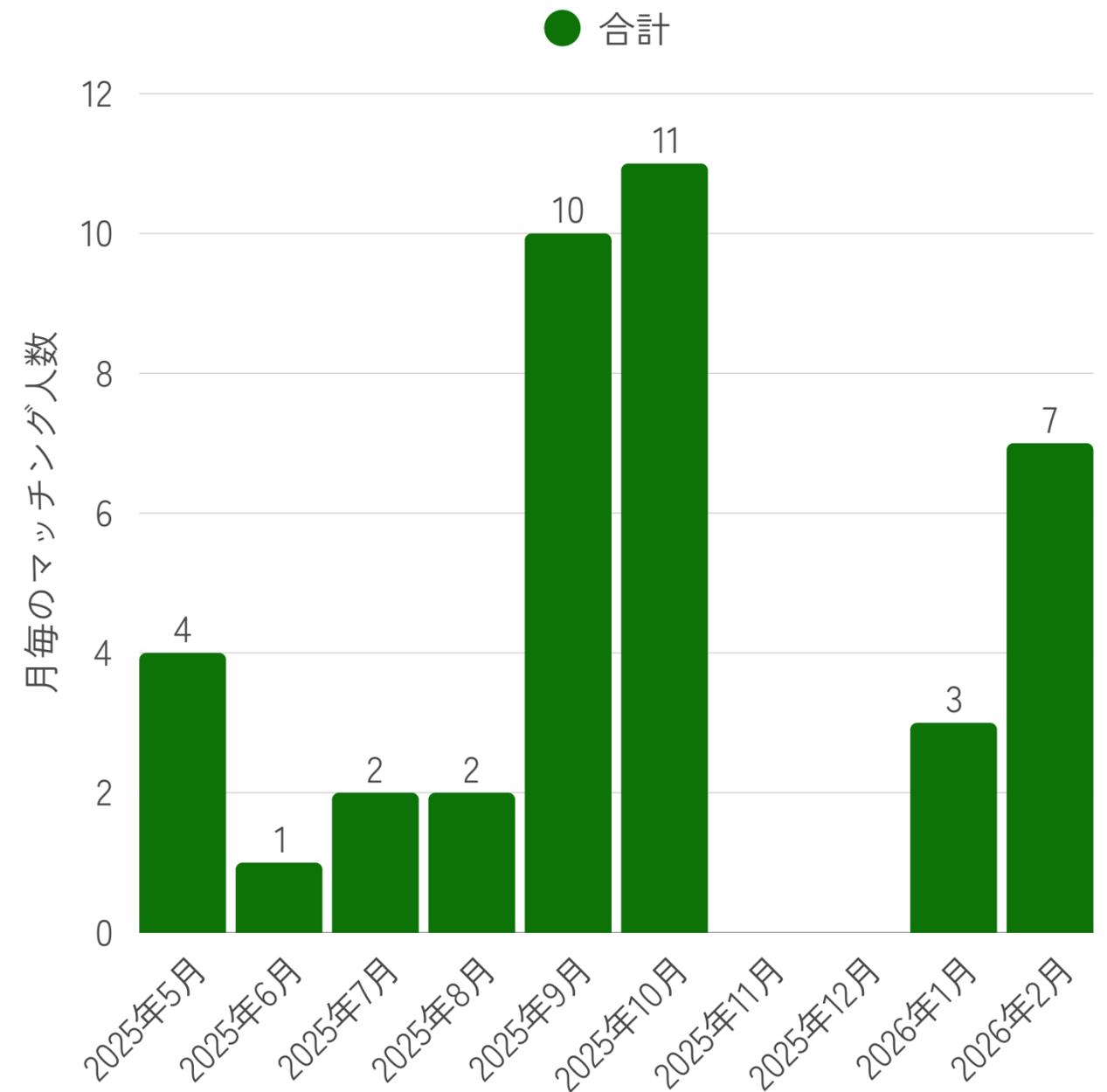
No農NoLife | ののの
2025年12月2日 08:20

群馬のりんご女学校さんに農旅に行ったユーザーさんより、体験談が届きました🍎。

タイトルは、「農から学ぶ“自分を大切にする感覚”」

マッチング人数 40名

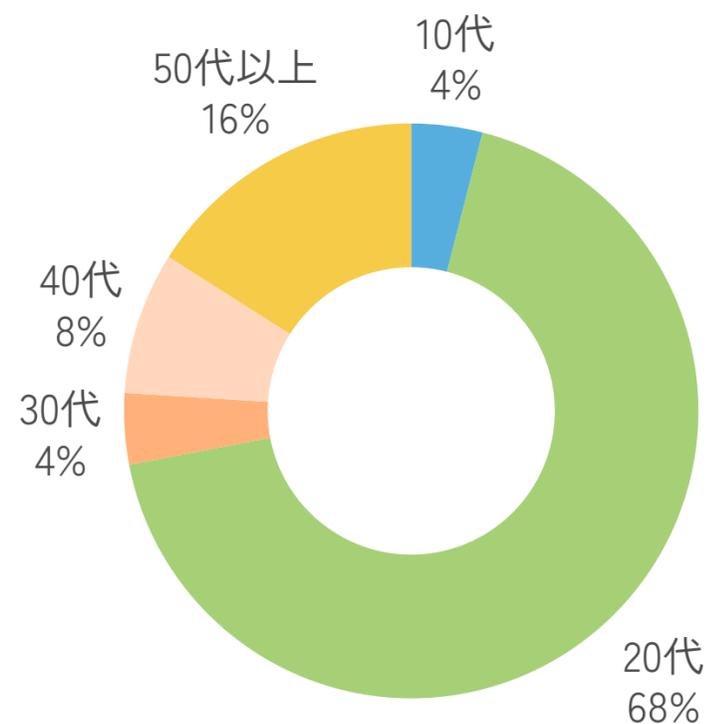
マッチング人数合計



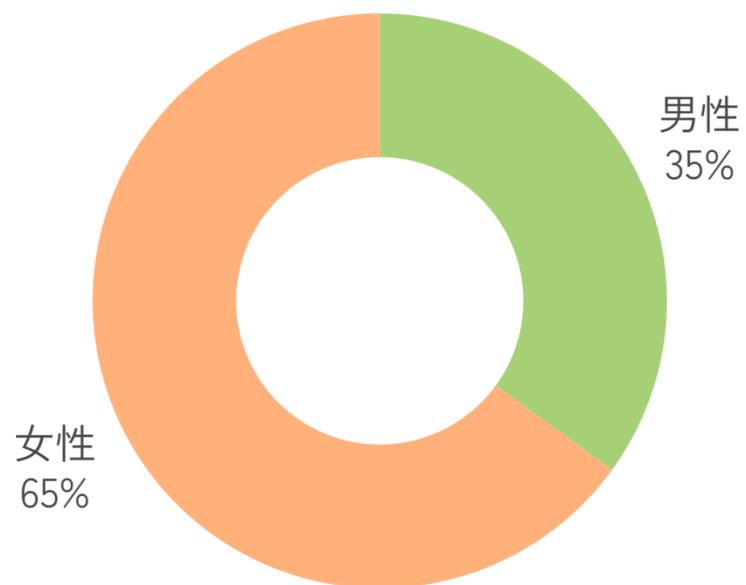
マッチング詳細

参画農園 3 農園 / 参加者延べ 40 名 / 延べ滞在日数 56 日

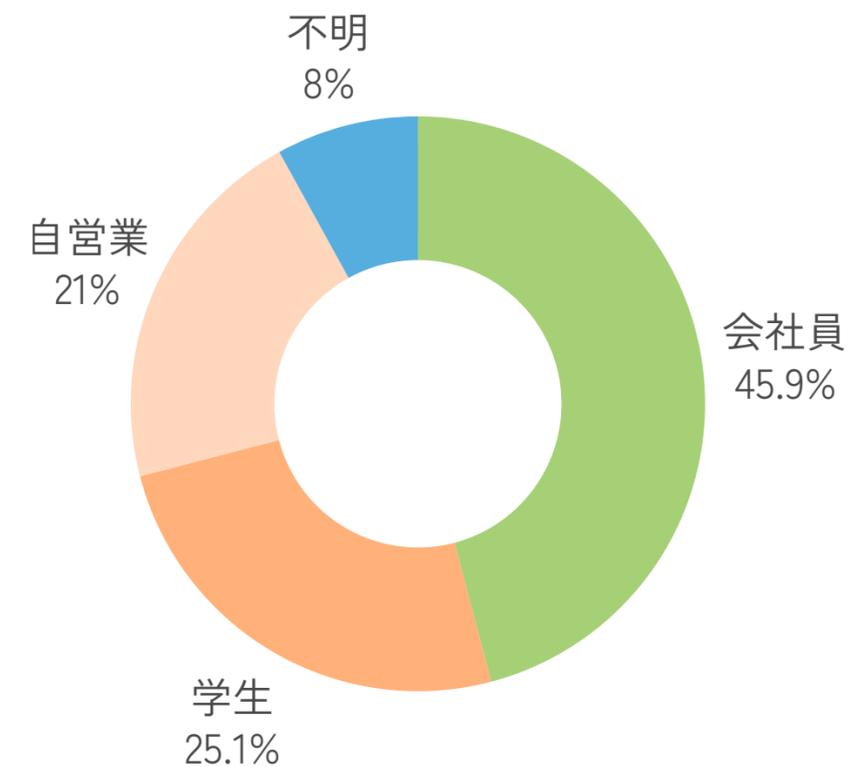
年齢構成比



性別構成比



所属別割合



ユーザーの声

満足度
4.9/5

アンケート回答頂いた10名の方より

“ BBQで地元の方とお話できたり、他の参加者の方とも交流できて勉強になりました。りんごの葉摘ははじめての体験で、その間にも寺崎さんはお客さんの対応をされてたりと忙しく動き回られてたので、リアルな現場を感じる事ができました。

30代 社会人 ”

“ 明るくにぎやかな雰囲気でもとても楽しい時間でした。1泊では足りないくらいに感じ、もっと長く滞在したいと思う魅力的な体験でした。

40代 社会人 ”

“ とても愉快な方々でお話しをずっと楽しく聞かせていただきました！
またりんごの食べ比べも行ってくださり、お気に入りのりんごの品種が出来ました！

20代 学生 ”

農家さんの声

りんご女学校 寺崎弥生さんはじめ 受け入れを実施して くれた農家さん方



1. 受け入れの実施状況・感想
 - 体験プログラム（農業体験・BBQなど）は参加者・受け入れ側ともに楽しい経験だった。
 - 収穫期には参加者が手伝ってくれたことで、作業面でも助かった場面があった。
2. 受け入れにおける課題
 - 個人農家が単独で受け入れるには、宿や設備の準備が難しい。
 - 「おてつだい」として受け入れる場合でも、実質的には賃金や管理コストが発生する点がネック。
 - 最低賃金は上昇している一方で、農産物の売上や収量は大きく変わらず、経営的余裕が少ない。
 - 現状では、関係人口の継続的な関わりにつなぐににくい側面もある。
3. 受け入れ体制・環境についての意見
 - 宿泊施設や空き家を活用した受け入れ拠点があれば実施しやすい。
 - 空き家は地域にあるものの、活用やリノベーションの仕組みが整っていない。
 - 行政と連携し、宿泊拠点づくりや補助制度があれば受け入れが広がる可能性。
 - 繁忙期（6月、9月～11月頃）は短時間でも人手があると助かる。
例えば数時間の作業（3時間程度）に対して数3千円程度の負担であれば受け入れやすい可能性あり（6000円は厳しい）。行政と連携半額負担ができたならやれる可能性があるのではないかと示唆。
4. 今後の可能性・期待
 - 農業体験を観光資源として活用する方向性は良いと感じている。
 - リピーターや継続的な来訪者につなぐ仕組みができれば、地域との関係づくりにもつながる。

農家さんの声

石墨館

桜井勇一さん



参加者の様子・評価

- 味噌作り体験では、参加者は一生懸命取り組んでくれ、スタッフからの評判も良かった。
- 昼食の仕込みなど、午前中の準備作業を中心によく手伝ってくれて助かった。
- 作業量としては「半日作業・半日自由」という形だったが、目いっぱい働くほどの負担ではなく、全体として大変ではなかったとの印象。
- 自由時間は設定していたものの、実際には味噌作りの作業を手伝ってもらう時間が多く、自由時間はあまり多くなかった可能性がある。

参加者タイプによる違い

- 初回は3名参加で、女性は食事の仕込みなど問題なく対応。
- 一部の男性参加者は作業に慣れず、ややうまくいかない場面もあった。
- 2回目（女性3名）は特に問題なくスムーズに進行。
- 大学生2名の参加時は動きも良く、しっかり作業してくれたとの評価。

今後について

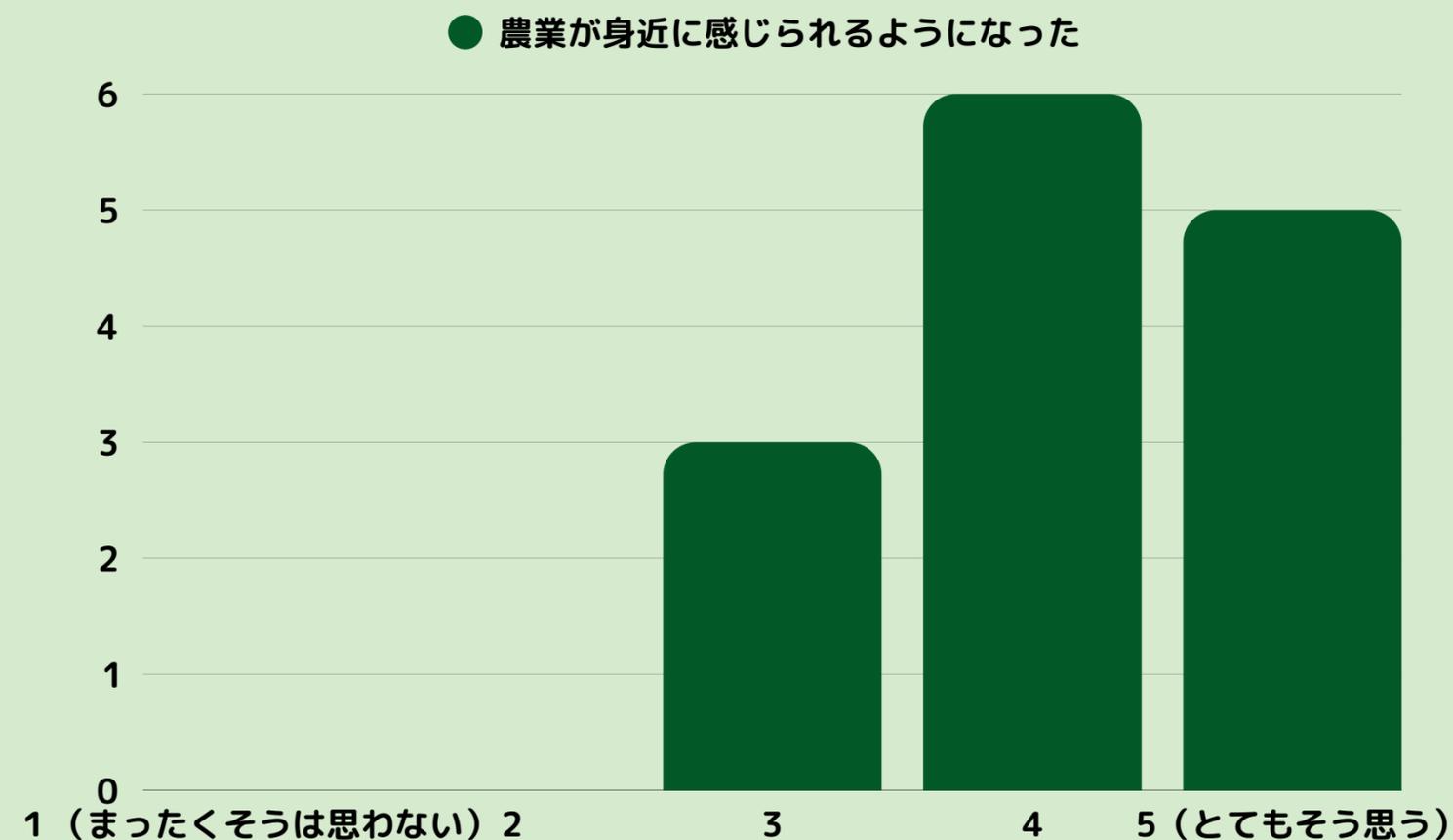
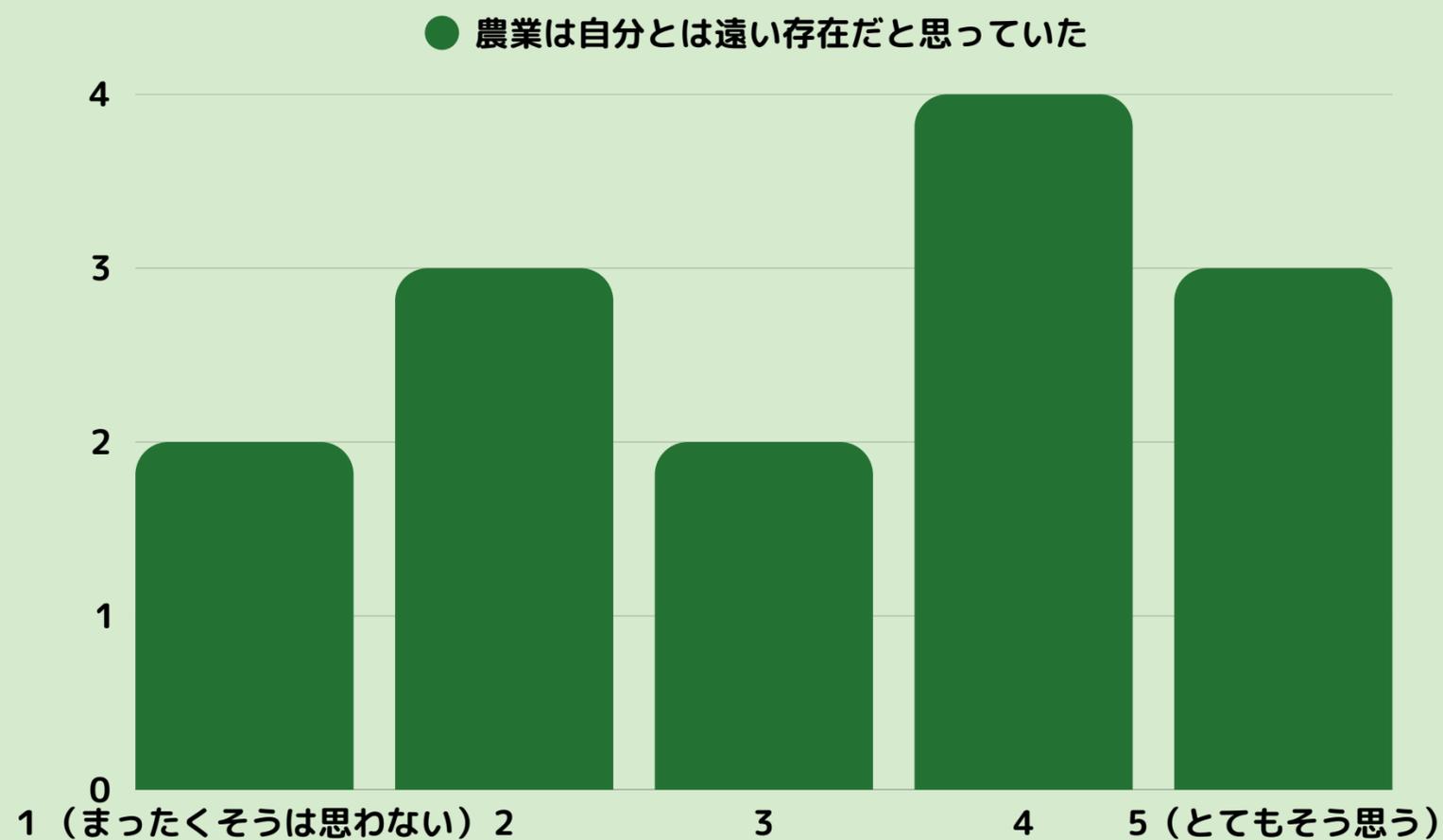
- 石墨館としては 今後ものもののでの受け入れを継続していきたい意向。
2026年6月～11月の期間での実施を想定。

関係人口へ



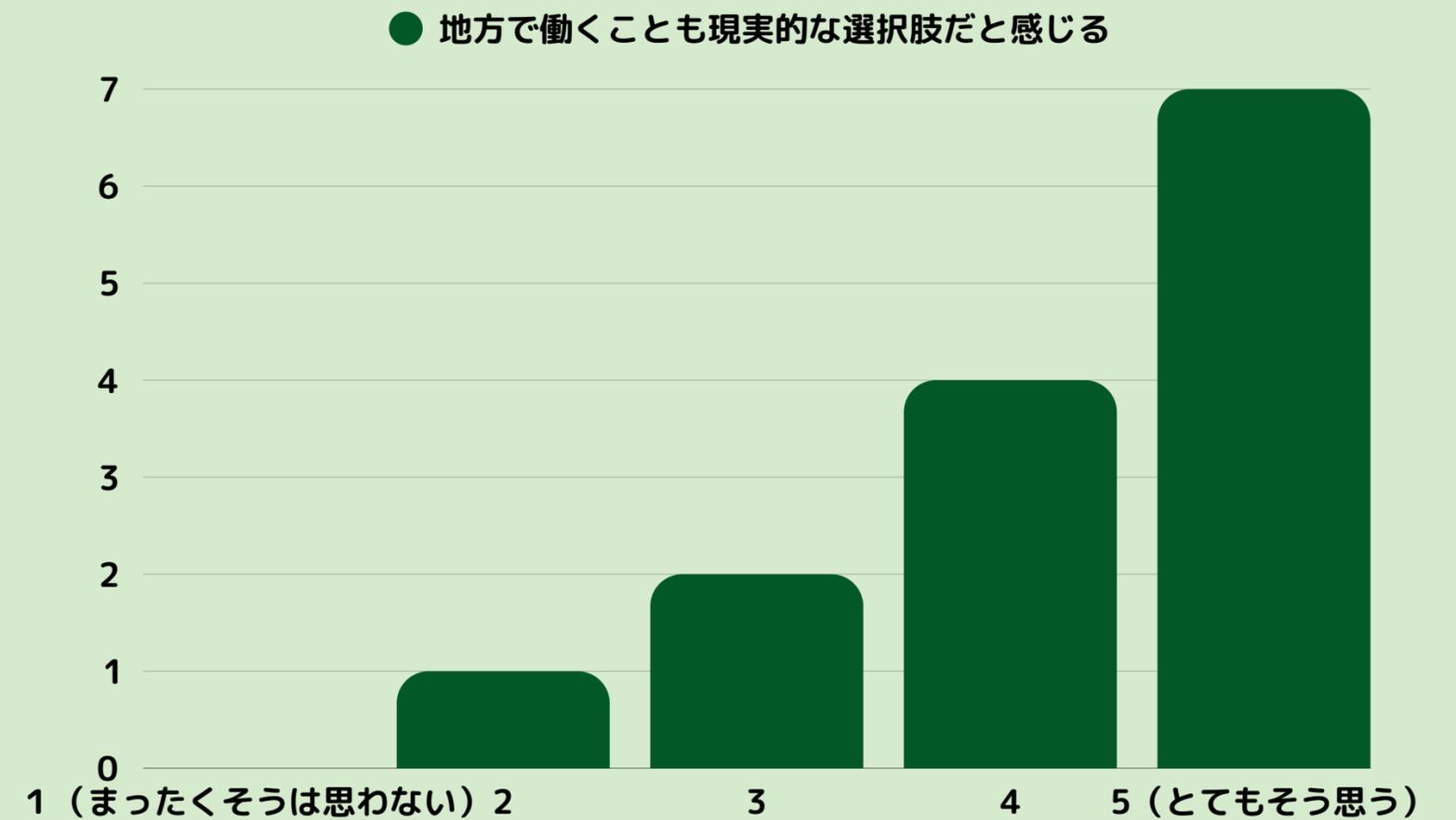
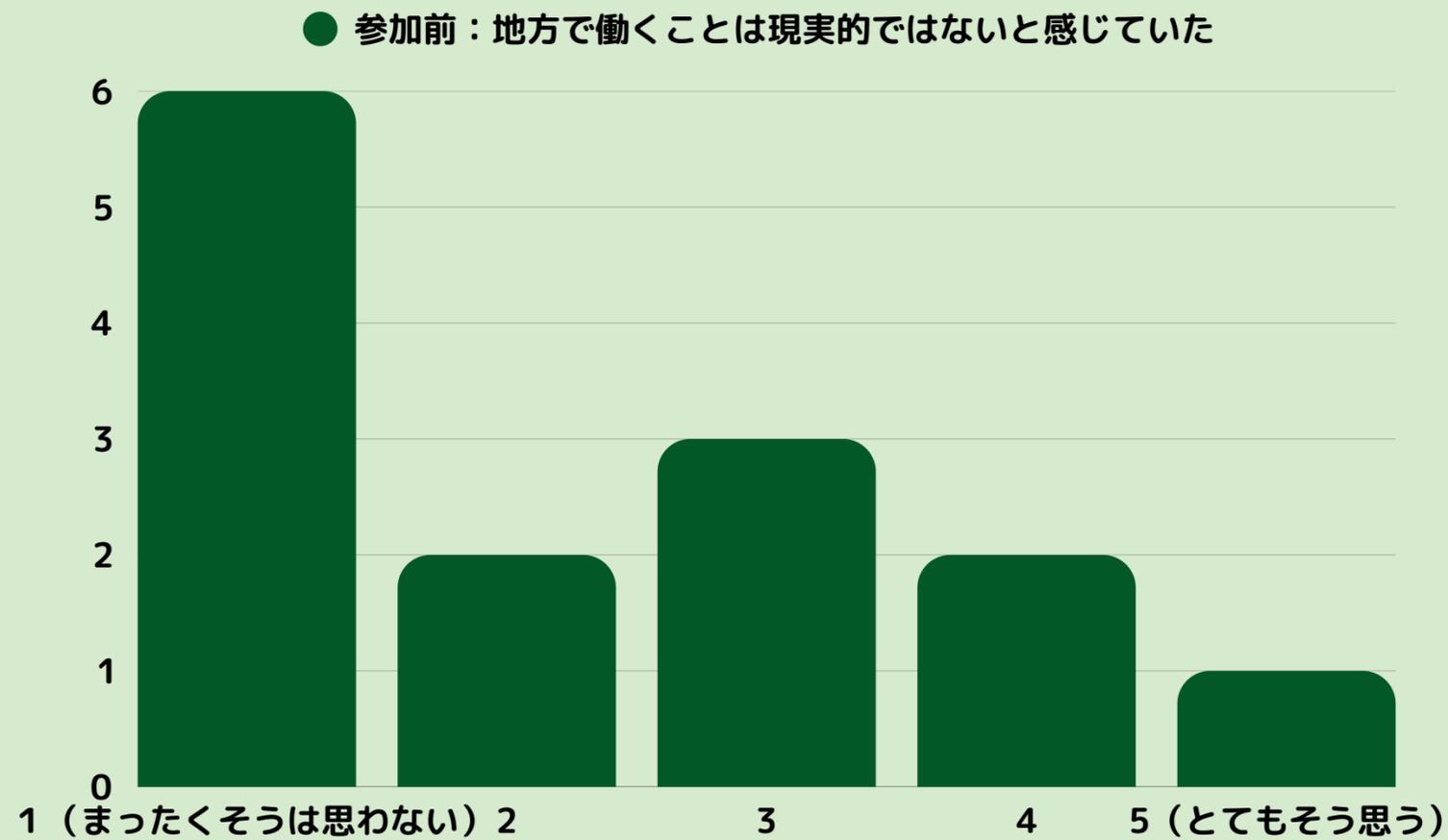
参加者の農業への印象

群馬におけるのこのワーケーションに参加した参加者にアンケートを実施。13名が回答。のこのに参加したことで農業がより近い存在に変わり、弊社の理念である「農」への敷居を下げることは達成できている。



地方・群馬へのイメージ

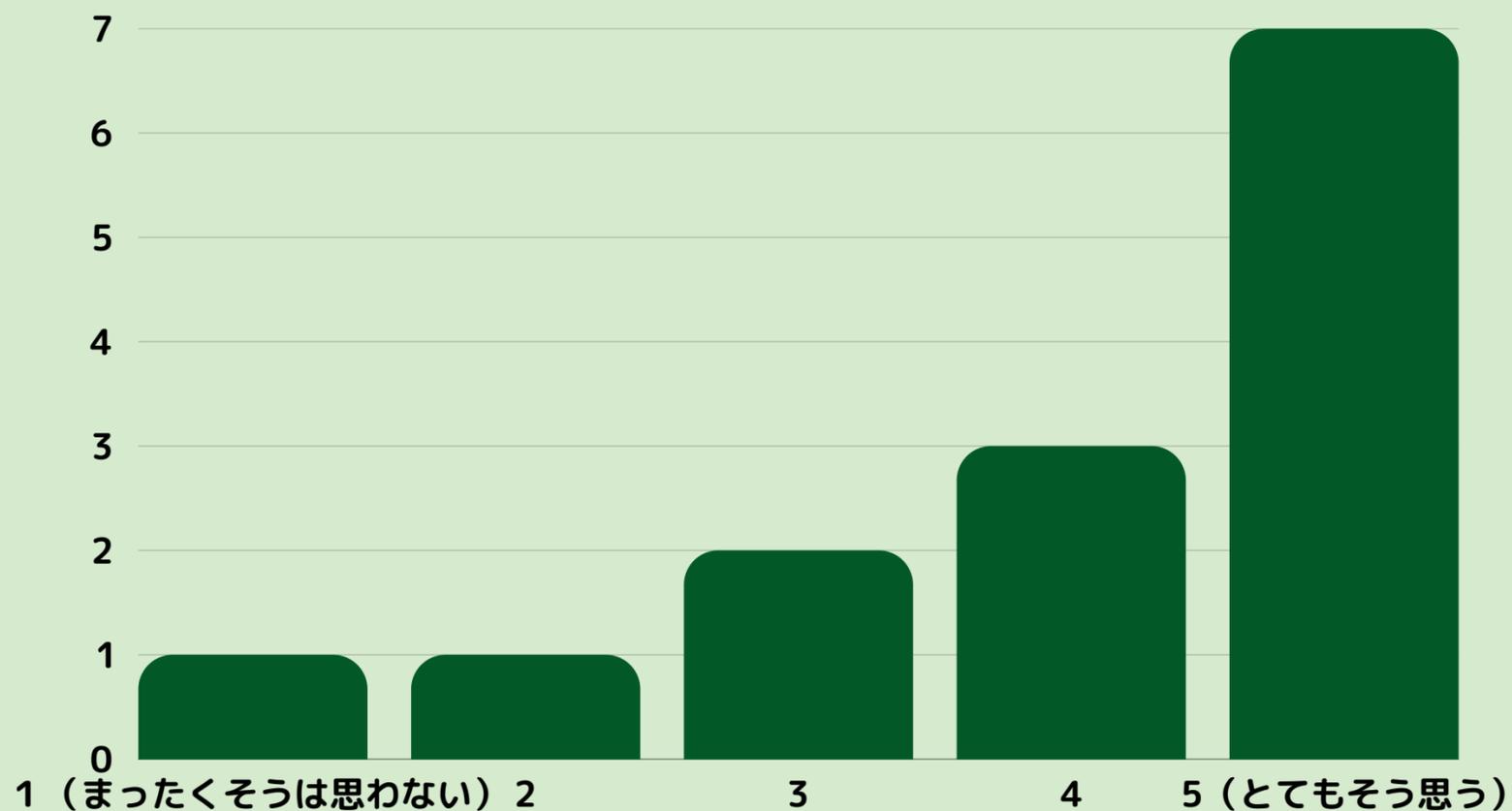
のののに参加したことで、地方で働くことがより現実的になったと回答。
参加前と参加後における地方で働くことの印象が変わっている。



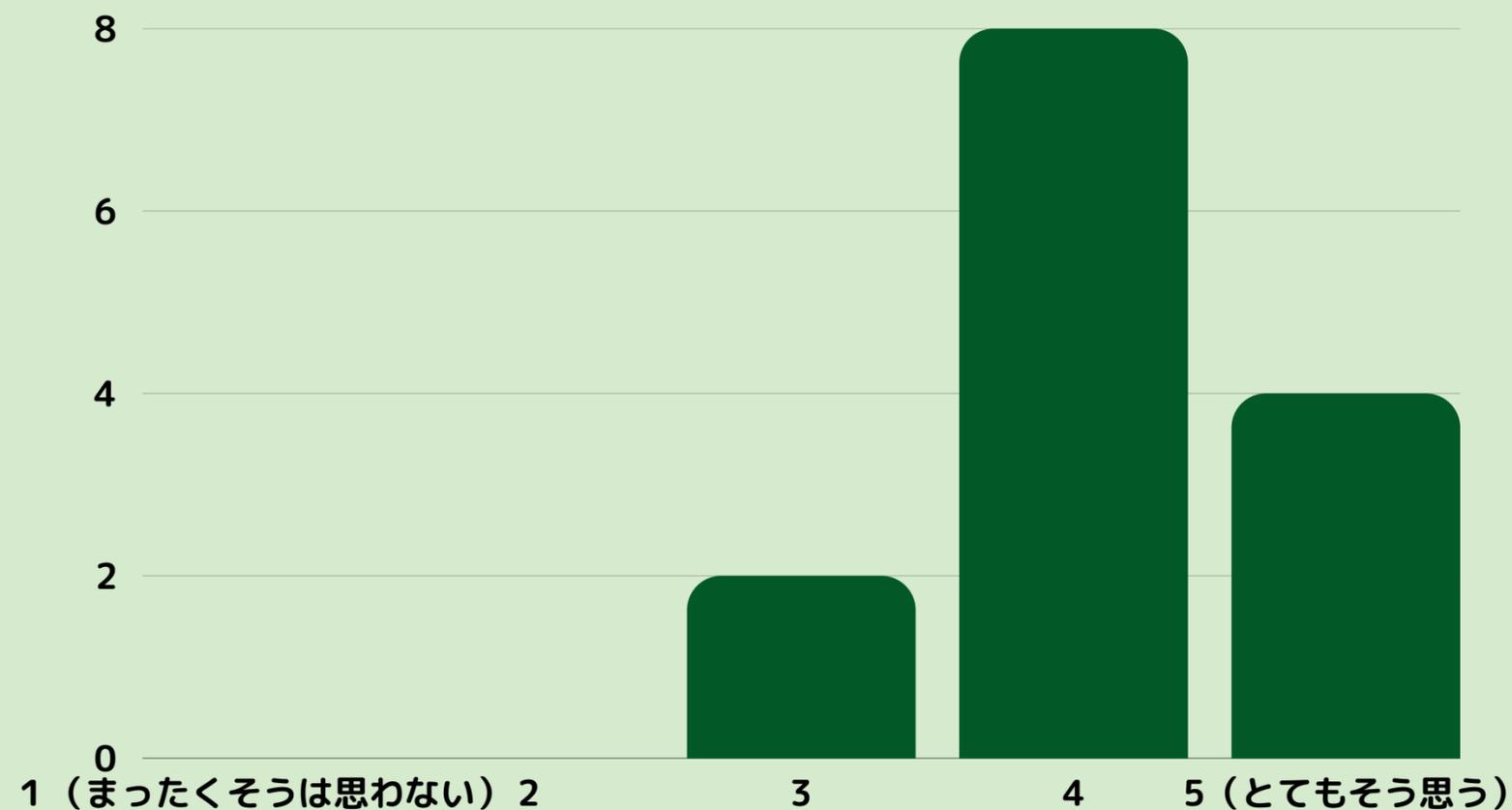
群馬への親密度

ののののに参加前は群馬に特に関心がなかったが、参加したことで群馬における親密度が変わっている。のののは普通の旅行と異なり、地域の人（農家）と交流することからより一層地域への愛着がわく。

● 参加前：群馬県に特別な関心はなかった

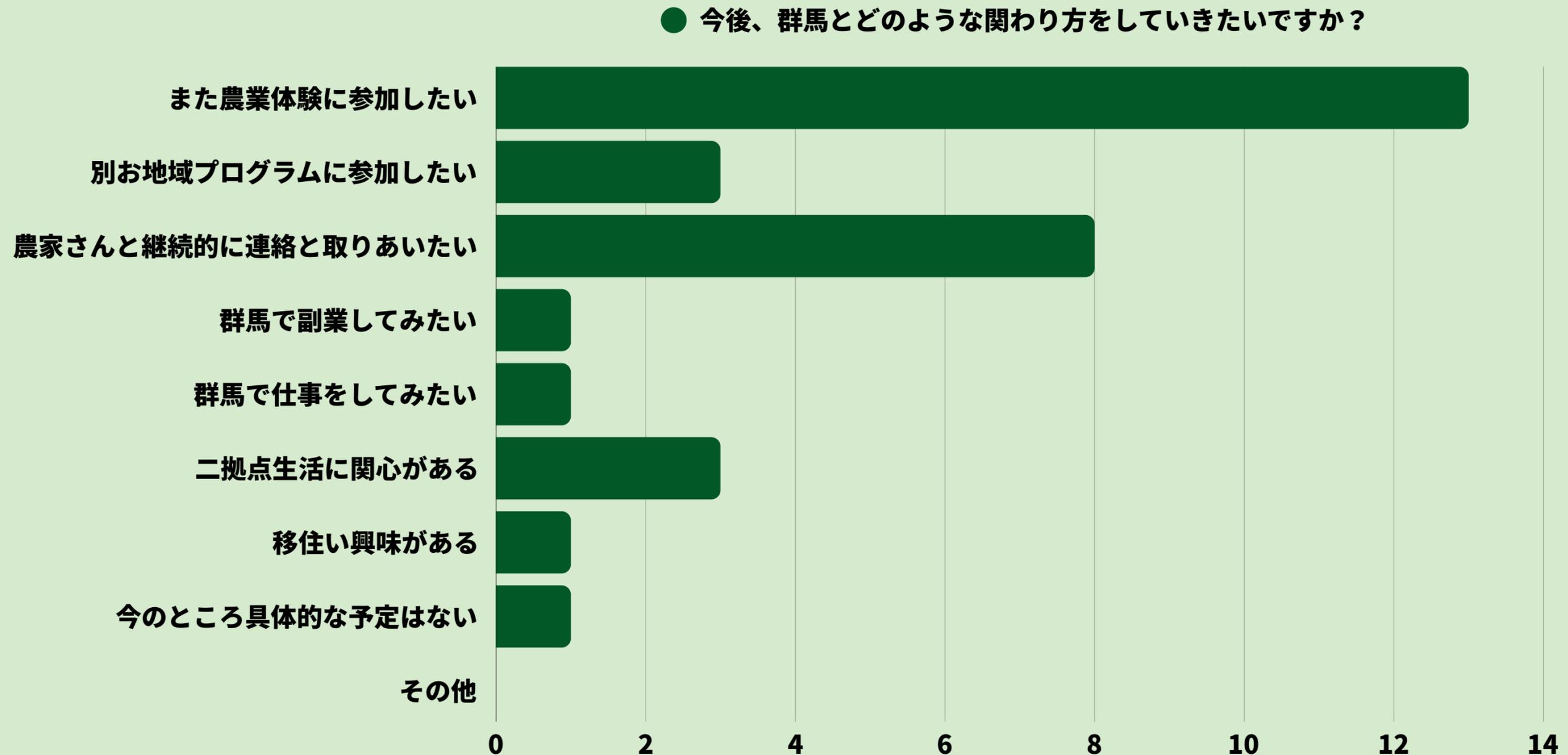


● 群馬に親しみを感じる



群馬への親密度

群馬への関わり方として農業体験に参加したいと回答した人が一番多いが、次に農家と連絡を取り続けたい、二拠点居住や移住への関心を示している方も一定数いる。



あなたにとって群馬との関係性を一言で！

アナザースカイ

りんごが繋いでくれた縁

気軽に訪れたい場所

農業を教えてくれた土地！

助け合う仲。

結論

協力いただいた3件の農家さんや行政の方々、地域の方々の協力もあり、参加いただいた40名の方は「関係人口」と言い切れるほど確かなつながりを醸成することができた。またイベントやメディアを通して群馬沼田の魅力を多くの方に伝えられている。今後、このつながりを二拠点移住や移住人口につなげていくためには、継続的なものの取り組みと発信が必要となってくる。宿泊の形などを工夫していきながら2026年も継続していく意向である。

こまち園



りんご女学校



石墨館



今後の課題



農家が負担が低く
受け入れができるような共有の宿泊場
所の有無が今後の群馬にかかわる人の
数を大きく変えることができる。



1回の参加に終わらず
継続的にかかわり続ける仕組
みを作っていくことが大事



のめのの × X
 -No農NoLife-

「農」への敷居を
 限りなく低くする



公式HP

Instagram

